

# 看護大通信

20



新潟県立看護大学(小児看護学)

助教 井上みゆき

昔に比べて、アトピー性皮膚炎と診断される子どもは増加傾向にあります。しかも、検査をしてアレルギーを調べ、食べ物を除去したり、環境を変えたり、薬を塗ったりして

も、以前のよう  
に簡単に治らな  
くなっているのが

最近の傾向です。さらに、アトピー性皮膚炎については、医師によっても少しずつ治療法が違っていることや、さまざまな民間療法などの情報が乱れ飛んでいることなどから、混乱を引き起こしているようです。

基本的な考え方として、

## 子どものアトピー性皮膚炎

乳幼児期は食べ物がアトピー性皮膚炎の悪化因子となることがよくありますが、乳幼児期を過ぎると、ダニ、ハウスダスト、カビなどの環境的な要素がアレルギーとなりやすいです。これは、環境的な要素は生活の中の工夫や努力によってかな

り減らすことができます。特に、ダニはアトピー性皮膚炎に深く関係する悪化因子です。ダニはホコリを餌に繁殖します。普段からこまめな掃除を心がけ、室内を清潔に保つことが大切です。食物アレルギーがない場合は、食物制限を

することによって成長障害を起こす可能性もありますので注意しましょう。

スキンケアでは、毎日の入浴やシャワーで、汗や汚れを速やかに落とすようにします。しかし石鹸・シャンプーを使用するときは洗浄力の強いものは避け、強くこすらないようにします。十分にすすいで石鹸・シャンプーが残らないようにしましょう。

お湯の温度は、痒みを生じるほどの高い温度の湯は避けましょう。入浴後には、必要に応じて適切な外用剤を塗布します。軽微な皮膚炎は保湿剤(白色ワセリン・尿素軟膏など)の外用薬のみで改善することもあります。子どもに

を選択することが大切です。洗剤は、界面活性剤の含有量の少ないものを使用するとよいでしょう。アトピー性皮膚炎は、ストレスでも悪化します。民間療法に惑わされることなく、患者の疑問に答えてくれ、適切なアドバイスをもらえる医療機関を受診しましょう。



まずは掃除とスキンケア  
イラスト:本学3年 海津美穂さん